

まちの話 だい

8月15日 | 川根の夏の風物詩

川根町家山の野守の池で「野守まつり」が開かれ、恒例の「和船漕ぎ大会」が行われました。

レースには、中学生や町内会、仮装の部などの6部門に42組84人が出場。選手たちは、2人一組でゴールを目指して船を漕ぎ、白熱したレースを繰り広げました。夜には、盆踊り大会や灯笼流し、花火大会も行われ、小雨を物ともせず多くの来場者でにぎわいました。



8月26日 | 若者がまちづくりを探る

高校生がまちづくりについて考える「全国高校生サミット in しまだ」が、8月25日から3日間にわたり地域交流センター歩歩路などを会場に開催されました。

県立島田商業高校をはじめ、女子高生によるまちづくりを進める福井県鯖江市役所 JK 課など全9団体約60人が参加。活動紹介やフィールドワークを通して、地域の魅力発信について学びました。

8月15日 | 筆に込めた平和への思い

終戦の日に合わせて、プラザおおりで「島田市平和祈念式典」が行われました。式典には多くの市民が参列し、戦争の犠牲となった人々の冥福を祈りました。

第2部では、県立金谷高校書道部の生徒14人が「届け! 平和へのメッセージ」をテーマに書道パフォーマンスを披露。幅6.6m、高さ5.5mの大きな紙に、平和への想いをしたためました。





8月27日 | 体験から始まる防災意識

9月1日の「防災の日」を前に、市内各地で防災訓練が行われました。今年度の島田市総合防災訓練は、五和小学校をメイン会場に実施。ハンゴ車訓練や緊急輸送路啓開（けいかい 救護ルート確保）訓練を実施するなど、より現実的な緊急事態のイメージづくりに取り組みました。

また、自主防災組織の協力を得て、被災者に応援物資が届くまでの一連の流れを検証しました。

8月6日 | 戦国時代に思いを馳せて

金谷地区菊川にある諏訪原城跡（すわはらじょうあと 国指定文化財史跡）で、小中学生を対象にした夏休み歴史教室が開かれ、親子14組35人が参加しました。

教室では、みうらまさゆき 三浦正幸広島大学大学院教授が、3月に復元された「やくいもん 薬医門」の特徴などを紹介。その後、子どもたちは戦国時代の通信手段である「のろし」を体験。杉葉などを燃やして煙り（のろし）を上げ、大井川対岸の博物館に合図を送りました。



8月26日 | 夜空を彩る花束に歓声

夏の夜の風物詩「大井川大花火大会」が、大井川河川敷の両岸で開催されました。

雨の影響による延期もあり、待ち望んでいた16万人の見物客は、スターマインや創作花火など夜空を彩る約8,000発の競演に酔いしれました。30回目の節目となる今回は、県内最大となる10号尺玉の同時打ち上げを企画。まるで花束のような光に、会場からは歓声が上がりました。